

主人を支えてくださった
皆さんにありがとう

私の主人は十九年前に肺癌が発見され余命数ヶ月であると診断されました。主治医の判断で本人には告知はしなかったのですが、U先生からのご縁で「気の波動療法」と「葉療法」を提唱されているS先生をご紹介いただき、指導していただきました。

結果、がん細胞は消え、その後十九年、主人は元気に仕事をしています。今年主人も六四才になりました。子供たちも皆社会人として巣立ち、未っ子の息子が私たちの家業を継いでくれる事にもなりました。

主人の病気が発見された際にかかわってくださった皆さん、主治医の先生、担当医の先生、U先生、S先生、K先生、主人の兄、主人をささえて下さったクライアントの事業主の方々、毎晩遅くまで留守の家を守ってくれていた今は亡き母、そして四人の子供たち。おかげさまで主人も私たち家族も、とても幸せです。ありがとうございました。そして何より元氣になつてくれた主人に家族全員からありがとうと言いたいです。

これから夫婦仲良く人生を歩んで行きたいです。

(練馬区早宮/M・H)

「サロン・ド・MASAE」に
ありがとう

伯父が闘病の末、亡くなった。車椅子の生活をする伯母が母屋でひとり暮らしになった。母親を心配して娘である幼馴染の女子ちゃんが毎週水曜日、海を渡つて対岸から実家を訪れていることを知った。

用事のない、仕事休みの水曜日には私もYU子ちゃんと伯母を外に連れ出しランチにでかける楽しみを得た。

私の十九歳の息子も車椅子ユーザーである。車椅子での外出は私の日常、車椅子の伯母を伴って外出することは私にとつてごく普通のことである。それでも伯母は気を遣う。

他人の手を煩わせることを負担に思う世代の間人だから当然の気遣いかもしれない。

実は私も、かつては同じ気遣いをする人間であった。

普通に健常のお友達と幼稚園、小学校と過ごした息子が周囲に迷惑をかけるのではないかと、と常に気を遣つて過ごしていた。



そんな親の心配をよそに息子はのびのびと彼らしく学校生活を楽しんでいました。息子の同級生は息子にさりげなく手をさしのべ、それが当たり前であるかのように息子のハンディキャップを受け止めてくれていた。

こどもたちの柔軟さに眼をみはる思いで幼い彼らに私は感謝と尊敬の念を抱いて過ごした幸福な時間だった。

果たして私は息子を育てる十九年間で周囲に気遣う気持ちやゆやかに変化させることができた。人は人をもっと信じてよい。足りないところは助けてもらえばよい。

そして、助けてもらつて側からも臆することなく望むところを発信していても良いのだ。

私は伯母と近しく接することで、息子を育てた十九年間に感謝した。特別な気遣いもなく、伯母を連れ出せることがうれしかった。

そういう機会を与えてくれた伯母とYU子ちゃんにもありがたい気持ちで外出を楽しんでいる。伯母と過ごす水曜日は伯母の名前でもつけて「サロン・ド・MASAE」。

私たちの楽しい集いを聞きつけた親族があちらこちらからぼつぼつと参加してくる。冠婚葬祭くらいでしか顔を合わせる機会のない親族が仲良く顔をあわせて談笑しながら食事を共にする思いがけない相乗効果を生み出している。

パリアフリーは便利だけれど、パリアを越えようとするとき、そこに人の心が寄り添う。

おばさま、ありがとう。おばさまのおかげでみんなが集う時間を与えられています。

「お酒は飲まない集まりだけれど、」
「サロン・ド・MASAE」に乾杯!!!

(千葉県袖ヶ浦市/葉子 R)

甥っ子が時間を間違えたことに
ありがとう

私は50代後半の主婦です。娘二人も嫁いで家を出たので、義理の母の介護をしながら主人と3人毎日穏やかに過ごしています。

先日甥っ子の長男の発表会があると、先日の甥っ子から一人だけ出かけた。甥っ子から聞いた時間通りに早朝に会場に行く、甥っ子は午後からでした。「あら、甥っ子、たまたま時間を間違えて私に伝えたんだった。」と間違つて時間を伝えた甥っ子に腹を立てたものの、ふと午前中の部のイベントを見ると、「アグネスチャン」のユニセフやボランティアに関する講演とありました。

「せっかくだから聞いていこうかしら……」話を聞いてびっくり。

私がかかえている母とのかかわりや、これからの人生に対する悩みの答えが、その講演にはありました。とても感動しました。私は時間を間違えてよかったとおもいました。

講演が終わわり、ロビーでお茶を飲みながら甥っ子の発表会を待っていると、向こうから甥っ子が頭をかきながら「ごめんごめん!もしかして時間間違えてつたええ?」と待ってたんじゃない?許してね。」走ってきました。

私は「いえいえこちらこそ時間を間違えてくれてありがとう。おかげですともいい話が聞けたよ。」とお礼をいったら甥っ子はキョトンとしていました。発表会も楽しかったし、とても充実した一日を過ごさせてもらいました。甥っ子に感謝です。

(三鷹市/M・T)

クマ柄のネクタイをくれた
息子と娘にありがとう

先日の父の日に娘と息子からネクタイをもらいました。1本はうさぎの柄ともう一本はクマの縫いぐるみの柄のものでした。

ぱつと見には小さい柄なのでわからないのですがよくみると「うさぎ」としてたくまさんがいっぱい描かれています。

娘いわく、「おとつさんにそっくり」だそうです。お客様と打ち合わせしているときに「このネクタイ子供にもらったんですよ。おとつさんにそっくりだつていうんです」とお見せするとみなさん笑顔になられます。

仕事柄、暗い話題になりがちな打ち合わせの場が明るくなります。ネクタイをくれた娘と息子にありがとう。

(ありがとう・不動産/豊田泰幸)

亡き妻と赤いスポーツカーに
ありがとう

私は今年84才になります。昔教員をしていましたが、退官後はきままな老後の人生をおくっています。
若い頃から車が大好きで、運転にはいまでも自信があります。今でも高速を130キロでとばしています。3年前に妻と乗りたいと思って、赤いスポーツカーを買いました。
ところが残念ながら、妻はその車に乗ることも無く、その一年後に逝ってしまいました。

思い起こせば妻は女優の入江たか子似の美人で明るい性格でした。私はその明るさにとても救われていました。居眠りしている時の顔がとてかわいくて今でも思い出します。
2座席しかないその車の助手席はビールシートをかけてあります。妻専用だから他の人にはよこされたくないのです。今でも車を飛ばして走り回っているのと妻が横にのっけてくれているようにうれしくなります。

運転免許更新の際は毎回「そろそろ運転をやめられてはいかがですか?」といわれますが、元気で人様に迷惑をかけないうちは運転をやめる気はありません。運転のおかげで私の行動半径はとて広いのですから。

ただ……私はたまに友人や家族を「ドライブに行くとき私の助手席に乗らない?」とさそいますが、誰も乗ってくれないのが不満です。まだまだ安全運転出来るのですが……赤いスポーツカーを駐車場に止め、さっそうと降り立ったとき、若い者達に「お若いんですねおいくつですか?」と尋ねられ「84才だよ」と答えたとときの相手の驚いた顔がたまり



せん。私が今でも元気で居られるのは妻とスポーツカーのおかげです。ありがとう。

(千葉県木更津市/村山堅一)

バスケットのコーチに
ありがとう

私は小学生の時からミニバスをして今年中学生になりました。小6の時には川北ブルーデビルズというチームのキャプテンをさせていただきました。練習も厳しくてコーチも鬼みたくて苦しかったけど、たのしかったです。中学生になってバスケット部にはいりませんでした。

ところが練習といえは走る事ばかり、下級生なので先輩の雑用です。小学生の時みたいに活躍はさせてもらえないし、先輩との人間関係もギクシャクしていて、つまらないと感じています。たまにOBとして小学生の練習に参加するとみんながうらやましく感じたりして、それを父に話すと、「そうか、でも、バスケットの楽しさを小学生の時に教えてもらってよかったじゃないか。今は修行の時期なんだよ。大人になつたら思うようになる事ばかりだよ。今は下積みと割り切って先輩のプレーをよく観察して、謙虚に。」

自分だつたらどうするか、自分だつたらしない事をよく考えて。やる気が知識と体力を蓄えておくん。そのときがきたら思いっきり楽しんでプレーすればいい。人生楽しいことばっかじゃないんだぞ。」と言っていました。そうかもいれません。

中学で新しい仲間も出来たし。私が上級生になったら思いっきり楽しんでプレーをしたいです。楽しさをおしえてくださつたコーチ、ありがとうござ

いました。
(横浜市戸塚区/豊田祥子)

道を通りかかった方に
ありがとう

最近父は大病を患ってから足腰がよわり杖をつけて外出します。昔から頑固で自分でやってきた父は私の助けがいやなようで何でも自分でやるうとするのです。

その日も役所に介護の申請書類を届けにいったのですが、エレベーターから降りるとよろよろと歩くので、私から降りるとすると「邪魔だ!!」とおこつて手をはねのけます。「おまえはバカだなにかんがえてるんだ!」と怒鳴るので私もいささか閉口してゆつくりと後についてあるいていました。交差点ではたたくさんの人だからで父を見失ってしまいそうでしたが父の言動に腹も立つし少し動揺もしていたので、イライラして交差点の中に空車のタクシーを見つけたので急に止めるのと「しまった!父を見失ってしまった。」

大きい声で父の名前を呼ぼうと思いましたが恥ずかしいし、タクシーは止めたままだし慌てて父を捜します。すると、「おーい、ここですよー」と男性の方が父をかかえて手を振っています。男性は私たちの様子をみていたようでした。男性は父の手をとりながら私たちをタクシーに乗せてくださりました。車が走り出して我にかえると「お礼を言うのをわすれた。」なんか申し訳ないといつかとてお恥かしい気持ちでいっぱいになりました。

この場を借りてお礼をいわせてください。手を貸してくださつてありがとうございます。ごさいまいした。
(文京区/Y・M)

【携帯 DeShoTt】
公園の片手隅でひときわ
艶やかなピンクの花を咲か
せる百日紅(サルズベリ)の
曇天の空に向かっている
が明けの空を催促する
ようにと、戯れつつ
と風と戯れています。



携帯電話の方はQRコードから
パソコンの方は下記のURLから
ht tp://1039.seesaa.net/
メールでのご投稿は...
info@holonics.gr.jp



【編集・企画】株式会社ホロニクス総研・編集部 03-5684-0021

【原稿をお待ちしています。】

本誌は北海道から沖縄までの友人知人から寄せていただいたことばに因んだ思い出を、作文、詩、俳句、短歌、写真、絵画などを掲載します。作品は編集部までお送りください。投稿いただいた方には「リジナル」や「ありがとうメカネ拭き」をプレゼントさせていただきます。皆様からのご投稿をお待ちしております。



また、ご自分のお名前や事業所名を刷り込んで、身近な方やお客様へ配布されてはいかがでしょう。編集へのご意見やご提案がございましたら是非お聞かせください。

